

模擬 G7サミット2019を終えて

渋谷教育学園渋谷高校 高2 五十嵐詩帆

8月7日、渋谷教育学園渋谷中学高等学校に社会問題の解決に高い関心を持つ中高生30名が集まり、「脱プラスチック社会の実現」について考えました。参加校は都立石川中等教育学校、渋谷教育学園渋谷中学高等学校、渋谷教育学園幕張中学高等学校、東京学芸大学附属高等学校、桐光学園、広尾学園、洗足学園中学高等学校、普連土学園中学高等学校でした。運営は渋谷教育学園渋谷高等学校2年五十嵐詩帆、江崎真優、遠藤加奈子、神崎花南、杉本絢香、中山まり菜、林奈都美、宮本陸央の8名で行いました。

まずは、5月に開催されたY20サミットのオープニングイベント「G20ユースダイアログ」で高校生代表として発表をした石川満瑠さん(渋谷教育学園渋谷高校3年)から報告をしていただきました。そして自己紹介とアイスブレイクの後、運営によるプレゼンテーションを行いました。内容はプラスチック問題の深刻な現状と悪影響、現在の取り組みと日本の実情を中心に行いました。できるだけオーディエンスを引き込むよう、クイズやディスカッションを交え、衝撃的な写真や豆知識も入れ込みました。皆さんにはとても熱心に参加していただき、私たちの「プラスチック問題をなんとかしたい」という思いがしっかりと伝わっていたと実感しました。また、このプレゼンテーションがきっかけであまり知られていないこの問題について新しいことが学べた、との声を多くいただき、本当に嬉しかったです。

その後はグループディスカッションに入り、「人々のプラスチック問題に対する意識を向上させるための、独創的で、高校生にでも明日からできるようなアクションプランを考える」という課題に取り組んでいただきました。今回は英語で話し合うグループが4つ、日本語が1つでした。運営の私たちは各グループを回って、アドバイスをしたり、考えについて聞いたりしました。どのグループもそれぞれ違った着眼点を持っていて、とても充実したディスカッションになっていました。特に、今回は「政策を作る」のことを目的とするのではなく、当事者である私たち高校生にできることを考えていただいたので、具体的なアイデアがたくさん出たように思います。

昼食時間中も、発表準備とポスター作成に取り組んでいただきました。発表は日本語で話し合ったグループも含め、英語で行われました。学校内に自動販売機の代わりに水筒にリフィルできる機械を設置する、各学校の生徒会を中心にプラスチックに対する取り組みを競い合う大会を作るなど、様々な案がたくさん出て、グランプリに輝いたグループはもちろん、どれも大変面白かったです。また、質疑応答では鋭い質問が飛び交い、皆さんがとても真剣にこの問題に関して考えていることを実感しました。

閉会式では、日本ユニセフ協会の高円承子氏に、人々の意識を変える難しさと実践例や、ユニセフの活動についてお話をいただきました。続いて、J7サミット2015日本代表として独メルケル首相と意見交換した足立愛音さん(東京大学法学部3年)からアドバイスをいただきました。

終了後はアンケートに答えていただきました。「ここまで深刻な問題であることは知らなかった」「想像していた以上に新しいことが学べた」「高校生にもできることがあることがわかった」など、多くの感想をいただきました。また、「ボトルの代わりに水筒を使いたい」「学校で何かをしたい」など、今後、具体的な行動に移していきたいと思っている方が多く、運営としてとても嬉しく思いました。アンケートの結果は、模擬G7サミット2020に生かしていこうと思います。

来年も引き続き、模擬G7サミット2020を8月の第1週に行う予定です。企画、運営から参加したいという方はHPDUの北原先生に連絡してみてください。

